

第2回「エコシティたかつ」推進会議 摘録（案）

- 日 時：2010年12月1日（水） 15:00～17:00
- 場 所：高津区役所 第1会議室
- 出席者：岸委員、田中委員、住田委員、伊中委員、川辺委員、鈴木委員、広瀬委員、栗山委員、三島委員、山口委員、田中委員、秋元委員
- 事務局：新井担当課長、八木課長、花岡係長、星、相原

■配布資料

- 資料1：第1回推進会議摘録（案）
- 資料2：市民委員会合摘録（案）
- 資料3：高津区区計画（素案）
- 資料4：「エコシティたかつ」推進事業 プロジェクト展開スケジュール（案）
- 資料5：「エコシティたかつ」推進事業2010年度スケジュール
- 資料6：「（仮）たかつ水と緑の探検隊調査」のモデル実施（案）
- 資料7：2010年度エコ企業調査プロジェクト（案）
- 資料8：「エコシティたかつ」推進フォーラム 企画（案）

■議事概要

1. 開 会

新井地域振興課担当課長より冒頭あいさつ、資料確認が行われた。

2. 第1回推進会議および市民委員会合の振り返り（資料1、2）

7月27日に行われた第1回推進会議と、10月14日の市民委員会合の振り返りを行った。摘録の内容に修正や意見があったら、来週中に事務局までお知らせ願いたい。

3. 推進事業の今後の展開について（資料3～7）

・高津区区計画（素案）（資料3）について

（事務局説明）

- ☆ エコシティたかつは、高津区の区計画のなかでも大きく取り上げている（資料3）。「区の現状と主な課題」の中で、「エコシティたかつの拡充と新たな展開」について記載している。238ページ以降は、市の各事業局が高津区で行っていく事業も記載されている。成案は今後作成していく予定。何かご意見があれば、事務局までご連絡をいただきたい。

・「エコシティたかつ」推進事業プロジェクト展開スケジュール案（資料4）について

（事務局説明）

- ☆ （資料4）は、2010年までの短期の12のプロジェクトと、2011～2013年の3年間の中長期的なプロジェクトの案を掲載している。次年度からの中長期

の取組みとして、エコシティたかつの推進体制については、幅広く応援団を募集する具体的な取組みをしていきたい。エコ・エネライフコンクールは中身を吟味し実施していく。フォーラムも引き続き実施していく。市民主体の活動にも側面支援していきたい。

- ◇ 次年度は、「たかつの自然の賑わいづくり」事業と「学校流域プロジェクト」を中心に進めていきたい。できるだけ多くの学校でビオトープを整備し、そのための人材育成も進めていきたい。雨水利用の促進や、教職員向け学習会等も実施していきたい。ヒートアイランド調査も継続実施し、結果を活用していきたい。区役所屋上に太陽光パネル、地下にリチウム電池を設置し、蓄電の仕組みをつくってきたが、引き続きクールミストや遮熱塗装もやっていきたい。

・「エコシティたかつ」推進事業 2010 年度スケジュール（資料 5）について
（事務局説明）

- ◇ （資料 5）は、全回 10 月 4 日の市民会合の情報などを整理したもの。後の議論のときに参照されたい。

・「(仮) たかつ水と緑の探検隊調査」モデル実施（案）（資料 6）について
（事務局説明）

- ◇ （資料 6）「(仮) たかつ水と緑の探検隊調査」モデル実施（案）は、生物多様性について、区レベルでどのような対応ができるかということで、このような案ができています。小流域を単位として、樹林や民間の土地の中のビオトープ（池、湧水など）やお困り外来種の確認などを、市民参加で行いたい。まずは、推進会議メンバーでモデル実施したうえで、広く市民に広げていく。場所は、高津区市民健康の森周辺とする。関心のある方には、12 月に勉強会の実施、1 月～2 月でモデル流域調査、3 月に推進会議で結果報告というスケジュールを考えている。

・「2010 年度エコ企業調査プロジェクト（案）」（資料 7）について
（事務局説明）

- ◇ 昨年は、ミットヨさんで取材させていただいた。2010 年度も推進会議委員とともに企業訪問したいが、訪問先はまだ調整中。12 月中に企画調整して、1 月もしくは 2 月に訪問し、3 月の推進会議でレポートを公表していきたい。

（意見交換）

- ◇ 中期の取組みにつなげていくために、昨年度とは異なった視点での調査が必要ではないか。企業の新しい動きとして「自社敷地内での生物多様性への貢献」という考え方がある。パナソニックモバイルコミュニケーションズ（鴨居）での取組みがその事例として挙げられる。（岸）
- ◇ エコ企業調査に関して、企業・事業者等とのネットワークづくりとは、どのようなことを具体的に考えているのか。（秋元）

- ◇ まずは、推進会議に参加していただくこと、あるいはコンクールに参加していただくことを考えている。まだ企業部会のようなものを立ち上げるところまでは考えていない。(事務局)
- ◇ ミットヨの取組みを市民に見学していただき、地域の人たちからどう見られているのかという評価をもらったことになる。企業がどういうふうにも市民に見られているのかという視点は、次のステップにつながると思う。それをきっかけに社内で議論をしていく流れになればいい。
- ◇ 行政も市民も、そういった点を評価する仕組みを勉強していかなければいけない。(岸)
- ◇ 企業調査の訪問先はまだ決まっていないのか。(伊中)
- ◇ 高津区内にも候補はあるが、区外で新しい考え方で活動しているところを見に行く方がよいのではないかと考えている。(事務局)

4. 「エコシティ」推進フォーラムの企画について（資料8）

（事務局説明）

- ◇ 今年度は、中期に力を入れていく2つの事業の考え方を、市民や学校の関係者に伝えていきたい。テーマは「温暖化適応策に注目した地域の安全と自然の賑わいづくり」。プログラムについては、岸委員長長の基調講演、2010年度プロジェクト実施報告のパネル展示、「学校流域支援プロジェクト」によるビオトープづくり支援の実態や事例報告をしたい。希望者には、エコシティホールの見学会も開催したい。

（意見交換）

- ◇ 小学校でビオトープを作ったのであれば、小学生や先生をお呼びして、連携してやってはどうか。(川辺)
- ◇ 学校側からは、なぜ学校教育の現場に公費を使って区役所が出てくるのかという御意見もある。来ていただくことにハードルは高いが、ぜひビオトープをつくった学校だけでなく参加してほしい。ビオトープは維持管理が大変というイメージがあるようだが、授業展開が始まった学校に行くと、よかったという声があるので、他の学校にも広げてほしいとお願いしている。参加日などを学習機会にあてて、少しずつ保護者の理解も得られる努力をしているようだ。(事務局)

（全般的なコメント・意見交換）

- ◇ 普段は教育者の立場にあるので、子どもたちにどんなことを伝えていくか、ということに関心がある。地域とのネットワークや繋がりがうまくいくといい。里山だけではなく、街の中に緑を持ってこなければという問題意識ある。(田中)
- ◇ 流域アプローチのなかで、里山も扱っていかないといけないが、里山だけを意識してやっていくと限界があると思っている。なぜビオトープを整備するだけで地球温暖化対策に繋がるのか解らないという相談を受けるが、地域のことをやるこ

- とで、広域のことをやる基礎ができると思う。(岸)
- ◇ エコへの取り組みを、小流域単位、あるいは企業は敷地の中で、家庭は家庭の中で、という考え方をすると、非常に取り組みが具体的に見えてくる。(山口)
 - ◇ 企業を調査するときの評価基準に興味がある。多様な基準のなかで評価が生きるのではないか。(三島)
 - ◇ 高津の市民が頑張った結果がなかなか見えにくいと感じている。たとえば、保水力を高める取り組みでいえば、より保水性の高い農地をどうするかといったテーマで、区の皆さんに解りやすい目標の入った新しいタイプのアジェンダ設定も必要になってくるのではないか。(田中)
 - ◇ 自分は100戸位が入るマンションでの環境取り組みをやっていこうと思っている。環境というと敬遠されがちであるが、エコ・エネコンクールで賞をいただいたので、これによりキャッチフレーズをつけたい。地元で何かできることをしてほしいと言っていきたい。(住田)
 - ◇ 水と緑の探検隊調査のモデル実施はおもしろそうだった。区内の斜面緑地の面積や形状をデータ化したけど、そのなかで小流域思考は入れられなかった。緑の面積だけではやっていけないと気づいた。雨が降ったらどうなるのか、そこから流れた水はどうなるのかという視点が必要。それによって、「木を切るな」と言うことしかできない市民が、もう少し違う視点が持てると思う。守られて緑になっているところに次に何かできるのか。斜面伐採のあと12年かけて新しい雑木林を形成したが、そういう市民活動が育っていく。小流域思考を進めていくなかで、そのなかで市民活動をどう育てていくかという視点も大事。(伊中)
 - ◇ 緑地は保全されているだけでなく、保水力や質に関してもフォローしていく必要がある。(岸)
 - ◇ 探検隊の調査対象は市民健康の森となっているが、たとえば、御困り植物について、公園や家庭、多摩川河川敷など、調査が難しくない場所などで「こんなのありますよ」という情報を市民から提供してもらってはどうか。何かの形で市民に教えてもらうような調査の仕方もあるのではないか。(川辺)
 - ◇ 7月に区役所に太陽光パネルをつけたが、その後、実証事業のフォローは誰が管理しているか。(鈴木)
 - ◇ 日常的にはモニターで確認。環境局と連携とりながらフォローしていくが、あまり状況がよくない。(事務局)
 - ◇ たとえば、区役所モニターにいろんな事業の活動報告を掲載できるような取り組みも考えてみたい。(鈴木)

5. 会議のまとめ(田中委員)

- ◇ エコシティ推進を3年続けているなかで、確実に進んでいるプロジェクトがあるという印象。(資料4)で「これからの検討課題」として挙げられているような内容も、そろそろ中期的フレームのなかで考えていかなければいけないと感じる。たとえば、都市農地の問題について、農地利用の可能性はいろいろあるが、実際に農家の方と意見交換すると、皆さんパブリックマインドをお持ちで

あるが、相続時に納税される税金はすべて国にいつてしまう。この問題は3大首都圏に集中していて、国でもかなりそういうことが議論されている。力のある高津市民もがんばって考えていつてほしい。

- ☆ 政府の税制調査会で一定のNPOに税控除をする仕組みが議論されている。ノンプロフィットセクターをどう根付かせていくかが大事になっている。近くにある活動が着実に進んでいることがわかったので、この先の流れに沿ってどのように動いていけばよいか、皆で考えていかなければいけない。

6. 次回の会議日程など

(事務局説明)

- ☆ 次回の会合は、来年1月に改めて日程調整をしたい。フォーラムへのご協力をよろしくお願ひしたい。

(以 上)